国際交流基金アジアセンター
アジアフェローシップ報告書
佐次えりな

◎フェローシップ活動を終えて

その昔、神は自然のあらゆるところに存在し、人間は神と自然と共存をしていました。このプロジェクトは、日本の「八百万の神」と ラオスの「精霊信仰」に類似点があると感じたことから始まりました。ラオスの少数民族のほとんどが「ササナーピー(精霊信仰)」 であり、自然と共存しています。彼らが何を感じ生きているのか、今後、文明とどのように共存する方法を見つけ出すのかという興味 が湧き、ラオスの北から南へ旅に出て、たくさんの少数民族と話をしました。旅の途中で、私は、「精霊信仰」のある生活や文化をリ サーチしているにも関わらず、「精霊信仰」という言葉がそれほど意味を持たないような気がしてきました。同じ精霊信仰であっても、 中身や捉え方が全く違うのです。精霊信仰=哲学や思想なのだと考えれば、彼らの話すことに納得がいくのです。「人間は、自然によ り生かされている」ことを良く知る彼らは、争うことを好まず、必要最低限の食物、物しか所有していません。質素を貧しいと呼ぶの ならば、彼らは貧しいかもしれません。しかし、彼らと話をしていると、大きな豊かな時間の流れが見えてくることが多々ありました。 少数民族は、近隣の国からやって来た民族であり、純粋なラオス人ではありません。北の少数民族の容姿は、中国、モンゴル人に似て おり、ベトナム国境沿いはベトナム人、南はクメール人です。ロシアから100年という年月をかけて、ラオスに移住してきたレンテン 族の老人には、特にインスピレーションを与えられました。そして、このラオスという国は、首都がビエンチャンであり、少数民族の 生活とはかけ離れています。ビエンチャンの中心に、私が共同創作をした国立人形劇場はあります。発展しつつあるビエンチャンで、 旅の最中に得たたくさんのインスピレーションをどのように形して発表したらいいだろうと、非常に悩みました。

私の得意とするのは、日常から生まれる身体感覚を表現レベルにすることと、3人遣いの文楽スタイルのパペットをツールにすることです。パペット操作自体が、ノンバーバルコミュニケーション。まずは、公務員であるシアターメンバーの上下関係を取り去ることから始めました。いつもは、組まない人とパペット操作をする。いつもはやらないパペットメーキングの手伝いをやってもらう。美術の手伝いを全員にやっても らう。演出家の指示ではなく、まずは自分自身で考えて操作をする。お互いのアイディアに意見をして、作品を向上させる。これを1ヶ 月強、飽きないよう工夫して、毎日行いました。作品自体は、直前にまとめ上げましたが、それまではまとまりがなくても、彼らの意見を取り入れ進めて行くことにしました。正に「作品を紡ぐ」作業を皆でしたと思います。その結果、いつもはパペット作りに参加し ない人も積極的にパペットを作るようになり、今では、皆でアイディアを出し合う姿を見ることができます。総合芸術であるシアター は、言語による対話だけではなく、ノンバーバルコミュニケーションがなくては成立しないのだということを、改めて彼らから学ぶことが出来ました。

この先、ラオスが発展するとともに、いろいろな娯楽が増えていきます。その中に「シアター」があり、芸術を追求することで、自然 との繋がり、他者との繋がりを学ぶ場であってほしいと思っています。また、そのようなラオスらしい「シアターの在り方」を一緒に 探していきたいとも思っています。その1歩として、今回のプロジェクトで作った「そこに、光あれ」の地方巡業をシアターの皆と出 来るように、新たなプロジェクトを立ち上げていきたいと考えています。 また、少数民族、日本、ネイティブアメリカンに「水と山と森」信仰と祭に共通点を見出しており、そのリサーチと共同創作を計画中 です。地形と気候は、そこに住む人々の視点に影響を与え、文化、芸術を形成してきました。カナダとの国境沿いの北アメリカの山の 中には、小さなパペットシアターがたくさんあります。彼らの作るパペットシアターは自然の中で上演されるのですが、ラオスで見る ことのできる祭りのマスクの形態に非常によく似ています。日本の祭のマスクも同じような容姿です。それは、「水と山と森」そして、 自然との共存が含まれる信仰が共通点なのではないかと思うのです。そのリサーチを再びし、この3つの離れた点を交錯させる作品を創ろうと思っています。

5ヶ月間、先進国の物差しを捨て、ラオス人の中で暮らし、同じ食事をし、一緒に悩み、喜怒哀楽を共にしたことが、作品に凝縮され たと思います。100人を軽く越えるラオス人、日本、またASEAN、アメリカ、韓国、フランス、イギリス、ポーランドの世界中の友人たちに支えられ、プロジェクトをやりきることが出来たことに感謝します。

↑ 2017年に、ラオス国立人形劇場の巡業に同行した時の様子